

第3節 シティプロモーション課

〔総括概要〕

シティプロモーション課の主な分掌事務は、シティプロモーション業務、マスコットキャラクター活用業務及び広報広聴業務である。

シティプロモーション業務については、「“ある”が嬉しいゆるやか栃木市」のキャッチコピーのもと、本市に“ある”様々な魅力を市内外に知ってもらうため、冊子の制作を行ったほか、市民目線でのシティプロモーションを推進するため、高校生を対象とした「ゆる栃くらすた」を募集し、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用した本市の魅力発信を行った。また、本市の知名度向上のため、国内外のイベントに出展した。更に、写真や動画を通じて、本市の魅力を再発見するために、「栃木市！大好き！フォト&ムービーコンテスト」を開催した。

マスコットキャラクター活用業務については、平成26年4月5日に誕生した栃木市マスコットキャラクター「とち介」を広くPRすることで、市民の一体感の醸成や本市の知名度の向上に努めた。また、とち介の派遣業務やデザイン申請の受付及び承認を行ったほか、県外にて開催された大規模なキャラクターイベントに参加し、本市への誘客や復興情報などの発信に努めた。

広報業務については、市民への市政情報の提供及び市外に向けての情報発信を目的として、広報紙の発行、公式ホームページ等への掲載、報道機関への情報提供等、積極的な広報活動を展開した。

広報紙については、紙面の充実を図りながら、毎月1回発行した。また、昨年度リニューアルを行ったホームページの内容の充実をはかるとともに、SNSを活用した広報活動として、公式ツイッター及び公式フェイスブックによる広報を行った。更に、栃木市コミュニティFM「FMくらら857」を活用し、身近な地域情報や災害・防災情報の配信を行った。

広聴業務については、それぞれの地域ごとのニーズや意見等を市の施策に活かすとともに、本市の進めるまちづくりについて理解を深めてもらうことを目的として、まちづくり懇談会ふれあいトークを開催し、市政に関する意見、提案を広く求めた。

また、老若男女の各世代が一堂に会し、地域の課題やまちづくりについて、市長及び市執行部と意見交換し、市政に反映するとともに、地域の活性化に向けたまちづくりに参画していく意欲の向上に寄与することを目的とした、多世代まちづくり意見交換会を実施予定であったが、令和元年東日本台風による被災の影響で開催中止となった。

シティプロモーション係

1 シティプロモーション業務

(1) シティプロモーション事業

ア 東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、本市の知名度向上のため、

海外で開催された日本文化のイベントへ出展した。

- ・「Japan Expo」 7月4日（木）～7日（日）
フランス パリ市 ノール・ヴィルパント展示場

イ 本市をPRするため、シティプロモーション冊子を制作した。

- ・シティプロモーション冊子 Tochigi City Real Visual Magazine 「aru vol.03」
（B5判、40ページ、1,000部）

ウ 本市をPRするため、栃木市シティプロモーション動画を新宿で放映した。

- ・栃木市シティプロモーション動画放映（45秒版）10月1日（火）～10月31日（木）
新宿アルタビジョン

エ 高校生を対象に「ゆる栃くらすた」を募集し、ワークショップ開催を通じて、SNS等を活用した本市の魅力発信を行った。

- ・開催日 12月15日（日）
・参加者 13名

オ 本市の魅力を再発見するため、市内で撮影した写真や動画を募集する「栃木市！大好き！フォト&ムービーコンテスト」を開催した。

- ・募集期間 令和元年12月2日（月）～令和2年1月24日（金）
・応募作品数 写真53名174点 動画8名8点

(2) 栃木市ふるさと大使

ア 本市の魅力を広く効果的に情報発信することにより、本市の知名度及びイメージの向上を図るとともに市民の一体感及び郷土愛を醸成することを目的とした「栃木市ふるさと大使制度」を設け、市にゆかりのある方に委嘱している。

- ・栃木市ふるさと大使 24人（赤荻一也氏、石川恋氏、上原チョー氏、桂小南氏、菊池優氏、雲田はるこ氏、古今亭志ん橋氏、澤村拓一氏、春風亭柳橋氏、武井択也氏、寺内崇幸氏、富田晋伍氏、富山貴光氏、蜂須賀孝治氏、半屋弘蔵氏、冬木れい氏、古川登志夫氏、間中利美氏、茂手木章氏、八津弘幸氏、山田五郎氏、山田昌彦氏、吉川真氏、渡辺俊介氏）

2団体（栃木シティフットボールクラブ、MAGIC OF LIFE）

イ ふるさと大使による情報発信を強化するため、FMくらら857への出演、イベントへの出演、シティプロモーション冊子へのインタビュー記事掲載を行った。

- ・ふるさと大使ラジオ出演（FMくらら857）（八津弘幸氏）
・栃木市高校生合同文化祭出演（菊池優氏）
・Tochigi City Real Visual Magazine 「aru.vol.03」インタビュー記事掲載（八津弘幸氏、石川恋氏）

2 マスコットキャラクター活用業務

(1) とち介派遣事業

栃木市マスコットキャラクター「とち介」を市主催のイベントや学校行事、市内外の地域イベント等に派遣し、とち介自身のPRと共に市民の一体感の醸成に努めた。

- ・派遣回数 185回 (市内148回 市外37回) 月平均 約15回
- (2) デザイン申請・承認手続
 とち介のデザインを用いた商品等の、デザイン使用申請の受付及び承認を行った。
- ・承認件数 196件 (販売品111件 非売品85件)
 - ・商品 文房具、バッグ、Tシャツ、ぬいぐるみ、フォトスタンド 等
- (3) とち介関連のイベント開催
 とち介に関連する各種イベントを開催した。
- ・きゃわふえす i n 栃木市 にかいめっ☆
 4月20日(土) 栃木市総合運動公園総合体育館 来場者数 約3,400人
 - ・とち介夢のポストデザインコンテスト
 応募作品 49点
 - ・とち介のクリスマス会 12月18日(水)、21日(土)
 栃木市役所本庁舎1階市民スペース 来場者数 延べ約250人
- (4) とち介公式SNSによる情報発信
 とち介目線のゆるやかな言葉で、本市の情報等を継続的に発信した。
- ・ツイッター フォロワー数 10,386人
 - ・フェイスブック フォロワー数 2,193人
 - ・インスタグラム フォロワー数 3,530人
- (5) マスコットキャラクター応援基金
 マスコットキャラクター活用推進の財源確保のため、栃木市ふるさと応援寄附(ふるさと納税)の「マスコットキャラクター活動支援事業」コースにて寄附を募った。
- ・受入件数 265件
 - ・受入額 6,435,000円

広報広聴係

1 広報業務

(1) 広報紙等による広報

市政全般について掲載した広報紙を、特集記事の強化など内容の充実を図りながら毎月発行し、市政のPRに努めた。

ア 広報とちぎ

- ・発行回数 定期12回(毎月1回)
- ・発行部数 53,500部
- ・仕様 A3判2つ折り

号	ページ数		号	ページ数	
	4色	2色		4色	2色
109(5月号)	8	8	115(11月号)	8	8
110(6月号)	8	8	116(12月号)	8	8
111(7月号)	8	8	117(1月号)	8	8

112(8月号)	8	8	118(2月号)	8	8
113(9月号)	8	8	119(3月号)	8	8
114(10月号)	8	8	120(4月号)	8	8

イ 広報とちぎ点字版

- ・発行回数 定期6回（2か月に1回）
- ・発行部数 25部
- ・仕様 B5判点字用紙（約30ページ）

ウ 声の広報とちぎ

朗読ボランティア「あかり」及び音訳グループ「いずみ」の協力を得て発行

- ・発行回数 定期12回（毎月1回）
- ・仕様 CD・SDカード・カセットに音声収録

エ 令和元年東日本台風災害支援情報紙の発行

令和元年東日本台風災害支援情報紙を作成し、市民に広く周知を行った。

- ・発行日 第1号 10月27日
第2号 11月 3日
第3号 11月10日
第4号 11月17日
第5号 11月24日
第6号 12月 1日
- ・発行部数 57,000部
- ・配布方法 新聞折込・市内各施設の設置・市ホームページ

(2) ホームページによる広報

前年度にリニューアルを行ったホームページの機能を活かしながら、市政情報やイベント、観光案内、生活ガイドや災害情報等の内容の充実化と積極的な市内外への発信を行った。

- ・アクセス件数（ページビュー数）7,379,530件

(3) SNSを活用した広報

SNSによる広報を行うことで、多様な媒体を通じての情報発信強化に努めた。

- ・投稿内容 行政情報、観光情報、災害情報等
- ・投稿数 フェイスブック 656件 ツイッター 1,695件

(4) テレビ・ラジオ等による広報

ア CATVコミュニティチャンネル

広報とちぎの内容や市政情報等について、ケーブルテレビ(株)に番組制作を委託し、同社のコミュニティチャンネル（デジタル111チャンネル）で放送した。

主な番組

- ・Report Tochigi
職員による市政情報発信番組として、イベント情報や市政情報の発信を行った。併せて、市内施設の紹介も実施した。
5分番組で、月毎にテーマを変えて放送した。（1日5回程度放送）

- ・生活文字情報
文字スクロールによる生活情報で、1日9回、毎日放送した。
- ・エリア便
イベント等の告知情報で、毎週月～木曜日に約1分間放送した。
- ・新春特別番組「新年のご挨拶 栃木市」
市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。
10分番組で、1月1日（水）～5日（日）に放送した。

イ とちぎテレビ

市政のPRを行うため、（株）とちぎテレビに番組制作を委託し、市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

- ・新春特別番組「2020年 わが街発！」
30分番組のうち10分間で、1月1日（水）、3日（金）に放送した。

ウ 栃木放送（C R T）

市政のPRを行うため、（株）栃木放送に番組制作を委託し、市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

- ・新春特別番組「新しい年を迎え栃木市長に聞く」
10分番組で、1月1日（水）、3日（金）に放送した。

エ エフエム栃木

市政のPRを行うため、（株）エフエム栃木に番組制作を委託し、市長がまちづくりの抱負や行政運営、将来の展望について語った。

- ・新春特別番組「新春市長インタビュー」
90分番組のうち10分間で、1月1日（水）に放送した。

(5) コミュニティFM

栃木市コミュニティFM「FMくらら857」を活用し、災害情報・防災情報の配信や、身近な地域情報を発信することで、市民が豊かで安心して暮らせるまちづくりの推進を図った。

ア 市の広報番組

- ・「とち介PのHAPPY TOWN」 平日の11時～11時55分
- ・インフォーマーシャル 市からのお知らせを生放送で、毎日4回放送した。
- ・CM 市からのお知らせを録音し、毎日6回放送した。

イ 災害放送

- ・災害発生時に備えるため、毎週木曜日11時に緊急割込み放送の試験放送を行った。

(6) 報道機関等への情報提供

ア 記者会見

- ・定例記者会見 毎月1回
- ・予算記者会見 年1回
- ・臨時記者会見 随時(令和元年度1回)

イ 市政情報の提供（FAXにより随時）

- ・情報提供件数 428件

(7) 広報活動推進員による活動

各課で1名広報活動推進員（庶務担当係長）を選任し、広報活動の円滑な事務を行うための研修を毎年実施しており、今年度も3月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。

2 広聴業務

(1) まちづくり懇談会ふれあいトーク

市長をはじめとする市執行部が、市民の市政に対する意見、提案等を直接聴くことにより、課題等を共有し、市政に反映することを目的に実施した。

また、市の重要施策を市長等から直接市民に説明することにより、事業の周知を図った。

・ 栃木地域

実施日	出席者（人）	会場
8月 5日（月）	71	第5地区コミュニティセンター
8月 6日（火）	82	皆川公民館
8月 7日（水）	82	第4地区コミュニティセンター
8月 9日（金）	89	国府公民館
8月19日（月）	122	吹上公民館
8月20日（火）	67	第6地区コミュニティセンター

・ 大平地域

実施日	出席者（人）	会場
6月21日（金）	84	大平公民館
6月24日（月）	52	大平隣保館

・ 藤岡地域

実施日	出席者（人）	会場
6月 25日（火）	102	藤岡遊水地会館

・ 都賀地域

実施日	出席者（人）	会場
7月16日（火）	108	つがの里ふるさとセンター

・ 西方地域

実施日	出席者（人）	会場
7月 9日（火）	84	西方総合文化体育館

・ 岩舟地域

実施日	出席者（人）	会場
7月12日（金）	96	岩舟健康福祉センター

(2) 市政メール箱（電子メール）

インターネットを利用した広聴活動として、ホームページ内に電子メールによる投書窓口「市政メール箱」を設け、投書受付を実施した。

・件数 187件

(3) 投書箱

本庁及び各総合支所に投書箱を設置し、投書受付を実施した。

・件数 68件

(4) 郵送及びFAXによる市政に関する意見の受付

・件数 15件

(5) 来庁や電話による市政に関する意見の受付

・件数 4件

(6) パブリックコメント

重要な施策の策定過程において、市民の市政に対する意見や提案の機会を確保するとともに、政策決定過程への市民の参画を促進し、市民との協働によるまちづくりの推進を図るため、栃木市パブリックコメント手続条例に基づき、パブリックコメント（市民意見提出制度）を実施した。

・件数 10件